

## 10月17日 市田柿の成熟状況

### 1 成熟の傾向

- このところの低温により、前回（10日）とほぼ同様な数値となっている。
- 果実硬度の低下は、平成28年並みとみられる。
- 果頂部の着色は進んでいるが、へた部は進んでいない。  
同一園内でも外周部や樹冠の外側の果実の方が進んでいる。
- 条紋の発生が多くなってきているため高温多雨の天候によっては軟化もありうる。

### 2 収穫時期の判断

- 樹冠外部と内部の果実の熟度差が大きいので、収穫開始の判断は成熟が早い樹冠外部の果実で行う。  
へた部の着色は、遅れている。高温多雨条件でへた部の着色向上を待っていると、収穫適期を逃してしまうことも考えられる。
- へた部が緑色の果実を加工してしまうと、へた下の黄色い干し柿となるので区別して収穫する。
- 果肉先行のため、果皮色より機械剥皮できる果実硬度を確認して収穫を行う。

### 3 収穫開始時期（見込み）

- 硬度の低下は28年並みであり、今後の気象により左右されると思うが、収穫の開始時期の目安としては標高別に以下のとおりと思われる。  
標高400～500m：10月23日前後  
標高500～600m：10月25日前後  
標高600m以上：10月28日前後
- 収穫は樹冠外部の果実から行うなど、熟度を見ながら数回に分けて行う。

### 4 条紋対策

- 条紋の発生が多くなってきている。条紋発生が多い園では、炭疽病等病害防除のためトップジンM水和剤（1500倍・収穫前日まで・6回以内・200～700リットル/10a）を散布する。  
（平成30年10月10日 jpp ネット農薬登録情報確認）

### 5 剥皮等

- 早めの剥皮を行う場合、硫黄燻蒸後5日ころからのかびがの発生に注意し、吊るす連間隔を遠くし、室温が上がらないような管理（通気、日除け、扇風機による空気の循環等）に努める。
- かびの発生が懸念される場合は、再くん蒸等を行う。

### 6 その他

次回の熟度調査は10月24日。